

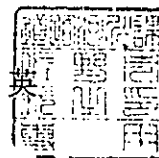


佐道河発第219号

平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

佐野市長 岡 部 正



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

このことについては、別添のとおりです。

（照会文書 平成20年9月19日付け 国道企第37号）

<問い合わせ先>

佐野市役所 道路河川課 管理係

佐野市田沼町974-1

TEL : 0283-61-1130

FAX : 0283-62-2691

今後の道路行政についての意見、提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

栃木県佐野市

道路や上下水道など、私たちの日常生活や経済活動に不可欠な社会資本は効率的、効果的に整備することが重要であり、特に道路整備は、快適で活力あるまちづくりと役立っただけでなく、県内外との交流、連携をも促進するものである。

市政懇談会などを開催すれば、市民の要望のほとんどが道路整備の問題であり、地方の道路整備が遅れている現状がはつきりわかる。

加えて、地方では、過疎化と高齢化が同時に進展する中で、高度医療施設へのアクセスが問題とされており、医療施設へのアクセスあるいは災害時の救援など緊急時への対応も必要である。

したがって、幹線道路の整備についても、重要課題である。

また、道路はネットワークが広がることで、道路の効果があがるのであって、高速道路一本では、その効果があがるものでなく、その周辺のアクセス道路の整備が必要となる。

このように、中央では道路整備は終わったのではないかという議論もあるようだが、地方ではまだまだ道路整備は不十分な状況である。

これらの道路整備を進めるためにも、現行の暫定税率を維持しつつ、道路特定財源を、道路財源として確保するとともに、地方の声や道路整備の実情を十分配慮し、遅れている地方の道路整備に重点的に配分していただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②—1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

栃木県佐野市

○ 現状 ・ 佐野新都市地区という商業地から、中山間地まで幅広い地域を抱え、各地域独自の歴史と文化、地域性を共有し、これらを活かした地域運営の展開と活性化を図っている。 ・ 既成市街地に加えて、佐野新都市地区、建設中の北関東自動車道（仮）田沼インター周辺を核として整備し、各地域を交通・情報のネットワークで結び一体感のある街づくりをめざしている。 ・ 佐野新都市地区への大型商業施設等の出店で、多くの来訪者にぎわいを見せ、活気づいているが、国道50号を中心に周辺道路の交通渋滞は激しさを増している。 ・ 東北自動車道では、佐野サービスエリアにスマートICを設置し、ドライバーの利便性や地域振興に寄与する。 ・ 田沼・葛生両地区の国道293号も大型車の通行が多く、すれ違いが困難であったり、歩道が整備されていないところがあるなど、危険な箇所がある。 ・ 佐野新都市地区にバスターミナルが建設され、東北自動車道の高速バスの東京との発着本数が増え、首都圏との交流が盛んになっている。 ・ 中心市街地については、主要地方道佐野行田線などの整	○ 課題 ・ 北関東自動車道が完成すれば、そのアクセスを確保するために、県道、市道の一層整備を進めなければ、高速道路の効果が半減してしまうにもかかわらず、道路財源不足により、推進が思うように図られない。 ・ 北関東自動車道の早期完成、特に岩舟ジャンクション以西の区間では、工事が比較的進んでいる（仮）田沼インターまでの先行供用はできないか。 ・ 東北自動車道佐野サービスエリアへのスマートIC設置に向けた国への社会実験の申請が遅れると、佐野新都市地区の発展に影響がでることほもちろん、地元町会の道路網整備も遅れることになり、地域のまちづくりも進まないことになってしまう。 ・ 中心市街地へのアクセス向上を図るための幹線道路の整備及び高齢者や障害者にもやさしい歩行者優先のバリアフリー化したうえにある生活道路の整備が必要である。また、災害時の電柱倒壊による通行の支障を排除するためにも、中心市街地の活性化や景観向上のためにも、市街地の幹線道路を中心に無電柱化の推進をしなければならぬ。
---	---

備が進んだが、一層の渋滞緩和や市民生活の安全確保のため、都市計画道路黒袴迫間線、主要地方道桐生岩舟線・佐野古河線などの整備にも取り組んでいる。

- ・ 学校や公園など文教、公益施設があり、生活道路として欠かせないにもかかわらず、車道幅員が狭いうえ、歩道がないため歩行者が危険にさらされている箇所がたくさんある。

- ・ 佐野駅前を中心とする市街地において、特に駅南土地区画整理事業区域（10.1ha）に隣接するまちなかは、歩道もなく、車道幅員も狭く、歩行者や自転車通行者が危険にさらされている。また、中心市街地は、郊外への大規模店舗の進出等に伴った空店舗の増加、買物客の減少など空洞化の傾向が見られ、街としての賑わいや活気が失われつつある。

安全な生活基盤の整備を進め、既成市街地や佐野新都市地区、北関東自動車道（仮）田沼インターチェンジ周辺を核として整備し、これらをつなぐ道路網を整備し、各地域を交通・情報のネットワークで有機的に結び、地域の特性を生かしながら一体感のある街にし、都市化の進展や生活様式の高度化に対応した道路や公園、下水道など生活環境施設の整備を進め、ゆとりとあるおいのある居住環境を創出する。

また、新都市地区に建設されたバスターミナルやスマートＩＣを最大限に利用し、首都圏との交流をさかんにし、佐野新都市地区ばかりでなく、旧佐野市内の見どころや自然豊かな田沼、葛生地域まで、観光客が回遊できるようになり、佐野ラーメンはもちろん、田沼、葛生の名物のそばまでもを楽しむようになる。

そしてその観光客を、中心市街地や佐野駅周辺へ誘導し、まち全体としての観光客数が増え、まち全体が賑わい活気づく。さらに、東北自動車道、北関東自動車道の２つのインターチェンジを擁し、茨城、栃木、群馬３県連携の中心に位置し、常陸那珂港や新潟港、京浜地区の港湾との物流が活発化し、物流の基地となり、商業、工業、農業、豊かな自然を生かし、幅広く発展するようになる。

このように、本市は、「育み支え合うひとびと、水と緑と万葉の地に広がる交流拠点都市」の実現を目指し、道路を中心とした都市基盤整備に取り組み、新しい夢を育み、生き生きと暮らせる住みよいまちづくりを推進している。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

栃木県佐野市

○ 重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・国道50号佐野バイパスの6車線化 ・東北自動車道佐野サービスエリアのスマートインターチェンジ設置 ・北関東自動車道の早期完成	・国道50号の渋滞解消 ・ドライバーの利便性、安全性さらに地域振興に寄与 ・佐野新都市地区の商業の発展に寄与 ・茨城、栃木、群馬3県の連携の中心に位置し、常陸那珂港や新潟港、京浜地区の港湾との物流が活発化し、物流の基地となり、新たな産業の立地、商業、鉱工業、観光の振興を促進	
・生活環境の快適向上（安全、安心の確保）	・歩道等の設置による歩行者の安全確保 ・中心市街地等の無電柱化	・事故の危険性が高い通学路の解消 ・高齢者及び障害者にもやさしい道づくり ・災害の防止（電柱倒壊）や景観の向上 ・中心市街地の活性化	